

令和元年度 第3回東郷町地域ケア推進会議：議事録

日時	令和元年 11 月 8 日（金） 14 時 00 分～15 時 30 分
場所	東郷町役場 3 階 政策審議会議室
出席者	委員 ※敬称略、順不同 松浦誠司 医師（東名古屋東郷町医師会） 岡松猛 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部） 佐藤裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会） 福島美佐子 訪問看護師（虹色訪問看護ステーション） 近藤秀己 東郷町社会福祉協議会 土井肇 東郷町北部地域包括支援センター 山内恵介 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑 制野司 有識者（社会福祉法人 昭徳会） 村井良則 有識者（東名古屋医師会在宅医療介護総合研究センターやまびこ） 池田寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし） 近藤正弘 東郷町民生委員児童委員連絡協議会 野々山清子 東郷町民生委員児童委員連絡協議会 柴田典義 施設サービス関係（愛厚ホーム東郷苑） 近藤修司 居宅サービス関係（エイジトピア諸輪） 松山陽二 居宅介護支援事業所（もみの木） 神脇和美 住民代表（第1号被保険者） 海老原由美 住民代表（第2号被保険者）
欠席者	木村誠子 瀬戸保健所 健康支援課 森本美香 こども健康部 健康推進課
傍聴者	2 名
事務局	福祉部長 高齢者支援課長（進行） 高齢者支援課職員 4 名
議題	1 報告事項 生活支援体制整備事業 東郷町地域支え合い協議体について 2 議題 (1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について (2) 在宅介護実態調査について
配布資料	次第 資料(1) 生活支援体制整備事業 東郷町地域支え合い協議体 報告書 資料(2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 調査項目一覧 資料(3) 在宅介護実態調査 調査項目一覧

1 あいさつ（委員長）

2 報告事項

生活支援体制整備事業 東郷町地域支え合い協議体について

事務局	資料説明。資料(1)
委員長	事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問がないようなので、次に移る。

3 議題

（１）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について

事務局	資料説明。資料(2)
委員長	事務局から説明を頂いた。特に追加項目について意見を伺いたい。設問の意図を見ながら、意見をいただければと思う。基本的にはアンケートは分かりやすい設問内容と答えやすい量が回収率を高めるポイントになる。それを踏まえて、前回の調査項目に追加していくこととなる。意図が分からないところなどから進めていきたい。
委員	3 食べることについて。国の設問は仕方がないが、問 18 の半年前ではなくもう少し前から本当は聞きたい。問 19 は、歯が 20 本あるかないかの話だが、歯が 20 本以上あることは健康寿命と相関があるので、意外に重要なことなので良いと思う。追加項目では現状や形を聞いているが、食べることが楽しみかどうかを聞いたほうがよいのではと思う。食べているが、食べることが苦痛の人であれば、何か食べることに問題があるのではないかと。歯科であれば、歯を作ったほうがいいのかなどを考えていけると思う。例えば歯があれば食べられると思い込んでしまいが、それは絶対的なものではない。まったく歯のない人でも、ゼリーなどの流動食が多くなるかもしれないが苦労して食べていたものを、家族が本人の意志とは無関係に入れ歯を作ったことで、食べる時間は短くなったが、1 ヶ月後には窒息で亡くなってしまった。今まではゆっくり細かくして飲み込んでいたが、入れ歯があると食べているフリをしていて、丸飲みをして窒息で亡くなることがある。形として聞くと食べられているだろうと評価をされてしまうが、実際は、本当に食べられているのか、丸呑みをしてしまっていないかを評価をしないといけないので、そのような項目があるといいと思う。
委員長	数値だけでは、ニーズそのものは分からない。何かうまく聞ける質問を追加する必要はあるかもしれない。
委員	地域包括支援センター（以下「包括」という。）の役割は何か、役場の一つの課なのかと、高齢者の認識はすごく浅い。例えば、介護保険にどのようなサービスがあるかすら知らない。サービスを受けたい一人暮らしの高齢者でも、遠方に子供や親類がいて、その親族などに相談したら怒られたということも聞く。こちらが親切心で言っても、息子に叱られたり、息子自身がサービスなどを知らない。ここで教えてもらったサービスや包括などは知っているべきものとして話をするが、それ以前の人の中にはいてとても悲しい。少しずつでも解決できる手段があ

	ればと思う。
委員長	なかなか難しい。追問 25 に役割について設問があるが、その前段階の話ですね。包括の役割そのものよりは、包括を知っているかから初めて、その上で知っている人についてどのくらい知っているのかに持っていく必要がある。反対に知らない人を把握した時に、どうやって知ってもらおうかということを考えていく。
委員	パンフレットや案内を持っていくが、メガネがないので読めないなど字をしっかりと読もうとする人は非常に少ない。
委員長	先日届いたアンケートの中に、虫眼鏡のシートが入っていた。読んでもらうため、アンケートしてもらうためには努力が必要であると感じた。
委員	追問 25 の 3 成年後見制度の利用支援について。成年後見という言葉は一般的に分かるものなのか、権利擁護制度と表現したほうがよいのか、包括に聞きたい。
委員	権利擁護になると、上の選択肢の高齢者虐待も含まれてしまうので、ここは成年後見制度の利用でいいと思う。
委員	一般的にも理解されているということか。
委員	そういう制度があると案内している。
委員	問 1 の年齢は、過去の調査もこの年齢層で行っているのか。80 歳以上はこれで一括りなのか。
事務局	6 期の時は分からない。
委員	男性も女性も平均寿命が延びていて、高齢者が多くなっている。特に 80 歳以上の医療や介護のニーズが急激に高くなると思うので、80、85 歳以上でニーズが変わってくるのではないかと感じた。
委員	追問 12、13 について。前回調査にも同じような調査項目があり、地域活動を中心として行いたいのかというものが、前回調査の問 29、30 と重複するのではないかと。
事務局	問 29 は活動自体に参加したいかどうかである。問 30 は、企画・運営・お世話役とあるが、企画・運営役とお世話役は役割が違うので、今回、旗振り役が企画運営者、周りのちょっとしたお手伝いをしてサポートする人をお世話役として、聞き方を変えるために分けた設問。比較的サポートする側ならやりたいという声は耳にはするが、実際にそういう数字を持っていないので、そこがこの聞き方で明らかになるのではないかと思います追加項目として考えている。
委員	問 28 から 30 と追問 12 から 14 は、地域活動としてひとくくりとして説明されているが、問 28 から 30 は、どちらかというと趣味・教養等の楽しみに近いような社会参加の場と捉えられるものであり、追問は自助グループとしての活動を指すような地域活動と読んでしまっていた。追問 14 に趣味特技を活かせる場がありますかとあるので、どちらのことを指しているのか。地域活動という言葉をもう少し自助グループなどの分かりやすい言葉にすると答えやすいのではと思う。
委員長	国の必須項目は文言も含めて変えるわけにはいかないものか。
事務局	大きく趣旨が変わらなければ、若干の文言は変えることはできると思う。

委員長	国の設問は趣味というところが強く出ている。この部分は趣旨を変えずに、文言を変えることくらいはできるということですね。それを踏まえて、追問１２から１４をうまく調整できる意見はあるか。
委員	問３０にも地域住民の有志と入っているので、問３１として入れるのか。そしたらつながりはできる。
委員	一般高齢者の立場で意見を言うと、全体的に設問が非常に多いと思います。字も小さいし、読みづらい。問１３で、外出とあるが、外出はどこまでのことを言うのか、買い物やゴミだしなど全部含んでいるのか分からないので答えづらい。追加項目では、外出もあれば、病院もあればと、ばらばらになっており、整理が必要だと思う。追加項目は、かなり重複で回答するものが多いが一つしか選べないものも多い。
委員長	複数回答ができれば良いということか。
委員	問２７は町独自のものであるが、この中でバラバラになっている。
事務局	今回はアンケートの書式ではなく、項目だけ並べた資料なので、実際のアンケートでの文字の大きさやスタイルとは異なる。
委員長	フォントは１１くらいが良いと思う。先ほど、複数で回答を管理することとなると、追問２１は、介護保険制度について知っているか、知らないかだけの回答にして、どのことについて知っているのか複数選択をしてもらったほうが良いと感じた。追問７は、助け合う地域はどのような範囲かという質問があるが、アンケートを回答する人は小学校区・中学校区が分かるのか。
委員	自分がどこの学校に行くかは分かるが、小学校区や中学校区がどこと言われると分からない。
委員長	行政区や組・班は分かると思うが、ちょっとそこが専門的になってしまい、答えにくいものになっているのではと思う。
委員	組や班は何の組のものなのか。自治会の中のものなのか、違うものなのか。高齢者が答えやすい質問にしたほうが良い。結果を期待して難しくすると、答えづらくていい加減に答えられることがあると思う。
委員長	適当に回答されるということになると精度が下がるのはもったいないと思う。
委員	追問１０で、自治会・町内会という言葉があるので、同じような言葉が良いと思う。
委員長	追問２８も、選択肢が「包括支援センター」となっているが、「地域包括支援センター」と違うのかななどの疑問が出てくるといけないので、合わせておいたほうが良い。
委員	全体的にボリュームが多いので、減らすための提案として、問２７の日常生活の困りごとについての項目があるが、自分が困っていること・地域が困っていること・自分は何ができるか・福祉サービスとして何がいるのかなど、似たような項目がたくさんあり答えにくいと思うので、整理してほしい。
委員	追問６で、この３年間で食欲の変化はどうかとあるが、３年間というのはどうなのか。直近のことが大事だと思う。

事務局	年数にこだわったわけではない。委員の言うとおりに、直近ないし、せめて1年や半年という設問の方がイメージしやすいと思う。
委員長	質問自体は良いか。
委員	はい。ただ、「食事をとらないことがある」とか「済ませることがある」とか、「ことがある」というのは、一回だけなのか多いのかというところで捉え方や把握の仕方が変わってくると思うので、そのあたりの文言も考えた方がよい。
委員長	文言については、調整させていただく。ボリュームが多いことで回収に影響することがあってもいけないので、これは入れたほうがいいのか、今回は省いていいのではという意見はあるか。
委員	※印のところは、30年度に一度聞いているということですね。また取り直すという意味か。
事務局	はい。※印は、昨年の文化産業祭りに来た135名に聞き取りをした内容である。
委員	実際に自分で回答してみた。高齢者だったらどれくらい時間がかかるのかと思ったが、かなり時間をとる。前回の回答率はニーズ調査は71.8%、在宅は53.8%となっている。設問を増やせば増やすほど時間がかかり、誰が説明するのかを考えると、もう少しコンパクトな形で設問をいれたほうが、答える人が楽だと思う。高齢者は、封を開けたらこんなにあるのかと驚かれることの方が大きいのではと思うので、もう少し設問をコンパクトにまとめられればと思う。
事務局	今回、設問数は考慮せずに提示している。これから削っていき、答えていただきやすい設問数にしていく。今回は、事務局の想いだけを出しているのだから、全部答えると時間もかかる。
委員	高齢者の立場から言うと、最初は意気込んでやろうと思うが、色々なアンケートが非常に多く届き、またかという思いがする。最初は取り組んでも、目は疲れるし、面倒くさいという気持ちにならないとも限らない。やはりスリム化するのが大事だと思う。
委員	どういう人を対象にするのか。積極的に答えていただける人は、地域活動にかなり力を貸していただける人だと思うので、そういう人を発掘したいのであれば、この項目でもいいと思うし、少し弱ってきた人の意見を聞きたいのであれば、簡単にすべきだと思う。どういう対象でどういう目的なのかをはっきりした方がいいと思う。
委員	介護相談員をしているが、この質問をしても答えられないと思う。できる・できないは答えられても、追問12、13のように、「はい」にしても具体的に答えられないといけない、「いいえ」にして理由を答えられないといけないとなると、代わりに聞くほうも、どうしてもでは聞けないと思う。誘導して選択する形であればいいと思うが、「はい」「いいえ」でも何かを答えられないといけないとなると難しいと思う。特に施設にいる人は、職員の苦労を考えると難しいと思う。
委員	細かくやれば正確なものがでるかもしれないが、どこまでのものを求めているかによっても違うと思う

委員長	前回調査の項目だけでも量が多いという認識ですね。そのうえで、今回新たになると、何かを削らないといけない。国の項目は仕方ないが、それ以外の町独自のものについてはもう一度、適正量がどれくらいなのかについて事務局と話を。極力増えないように、またはチェックだけで済むように項目を検討する。
-----	---

(2) 在宅介護実態調査について

事務局	資料説明。資料(3)
委員長	事務局から説明を頂いた。こちら追加項目について意見を伺いたい。
委員	要介護認定を受けていて在宅の人に送付するものであり、施設利用者は含まれないということで良いか。前回調査で半分しか返ってきていないのは、施設に入っている人の返送があまりないことが考えられるのではと思うが、認定者全員に出しているのか。
事務局	認定者全員ではない。施設の人には送付していない。ただし、有料老人ホームは在宅扱いなので送付している。
委員	回答するのには、誰かの手助けがいると思う。在宅で認定を受けている人はケアマネがいるので、ケアマネと相談しながら回答してもらうようお願いしないといけない。分からないところはアドバイスをしてあげてくださいと書いておかないと回答がしにくいところがあると思う。回答をして欲しいならば、そこまで補助をしてもらえるといいと思う。
委員	前回も、ケアマネジャーにサポートしてもらうことを申し出るという話がでていたと思う。ケアマネジャーにお願いすることが前提だった。アンケートが送られてきたときにケアマネや民生委員と一緒にという話があったと思う。要介護の人は家族がほとんど在宅している。ニーズ調査の方が文書が複雑で、こちらはまだ端的になっていると思うが、当然サポートは必要だと思う。
委員長	回答が抜け落ちていてもカウントされるのか。それとも、抜け落ちているところがあれば、その人はこのアンケートから外されるのか。
事務局	一部未記入があってもカウントはする。
委員	言葉の表現が、高齢者にとって分かりづらいものがある。例えば、「参加したいと思いませんか」「参加してみたいか」だと言葉が複雑で難しく考えさせられる。「参加しますか」というように簡単にいうと回答しやすい。高齢者には、このような聞き方には抵抗感があり、時間がかかると思う。「どのような地域活動なら参加しますか」にすると、簡単に○が打てると思う。出来るだけ高齢者が軽く考えて、あまり考えさせないこと。設問に対して○を簡単にうてるようにしたほうが良いと思う。
委員	文章が長いと、読み取りが大変。追問14あたりも、主な介護者の方が介護する上でとなっているが、もう少し省略して「介護する方が」にしてもいいと思う。
委員	在宅介護実態調査は、どのような人に依頼するのか。
事務局	要支援・要介護認定を受けている人に送る。
委員	だとしたら、余計に文章を考えないといけない。読まないと思う。例えば問5

	で、「地域にどのような手助けを協力して欲しいですか」「どのようなことが手助けできますか」などは、介護されている人は聞かれても回答が難しいと思う。調査する人に対して、誰かの協力がなくても答えられるような設問にすると良い。
委員長	文言も一度検討していきたいと思う。追問 4 も、介護を受けていて自分たちに余裕がない中で、協力できることはと聞かれても〇はつかないと思う。力仕事の手伝いなどはもってのほかだし、悩んでいるのに悩み事の相談相手になるのは難しいと思う。ただ、そういう方でも残っている力の中で自分たちができることもあると思うので、悪いということではない。
委員	聞き方の問題だと思う。
委員	記名式というものはどうなのか。名前を書くから、住まいを聞かないということだが、名前を書くから回答しないという人はいるのか。名前を書く事に抵抗があると思う。
事務局	アンケート自体を記名式にするかどうか業者と相談したが、統計的には数%しか回答率が変わらないということだった。それであれば、町が持っているデータと突合ができるので、記名式にしてはどうかと考えた。
委員長	数%のリスクをとっても記名式にしたほうが、深堀ができる価値があるということですね。
委員	追問 10 と 12 の介護保険料（以下「保険料」という。）について。保険料は収入に対して、条例などで決められているのですよね。アンケートの結果、パーセンテージが高くなっても、保険料は変わらないような気がする。保険料が高いと思っている人がいたにしても、高くなったり安くなったりすることがないのであれば、この設問は必要ないと思う。追問 11 は、保険料がどんなことに使われているのか関心を持ってもらうために必要だとは思う。アンケートの結果で保険料が安くなるのであれば、アンケートを書いてもらうことに越したことはないと思うが、金額が変わらないものについて、この設問は必要なのか。
委員長	アンケートでは、どういうイメージを持っているのか数的に検証するものである。
委員	だとすれば、追問 11 の使われ方に関心を持ってもらったほうが、本人も納得するし、行政がやっていることも分かると思う。
正委員	保険料の金額は、東郷町で決めている額なのか、愛知県で統一されているのか、国が決めているのか。例えば、保険料を使う人が少なくなれば、東郷町の額が減るという PR ができるものなのかどうか。
事務局	保険料は東郷町の条例で決めているので、日進市や豊明市とは金額が異なる。算定の方法は、計画期間 3 年間のおおよその介護サービスの使われる金額を算定して、それに対して国や県、基金から入ってくるお金と保険料で賄うには、どのくらいの金額を設定する必要があるか、3 年間の金額を算出して保険料を設定する。先ほど言われたように、アンケートで保険料が上がる下がるということはないが、アンケートの目的は、追問 10 から 12 の中で、まず、実際に介護サービスを使われている人が保険料をどれくらい負担に思っているのか、そこまで負担

	には思っていないという回答をもらえるのかどうか。次に、保険料が実際にこのサービスに使われているかを周知して、最後に、今後考えていく上で、サービスを充実させることで保険料が高くなるのはどうか、逆にサービスが少なくなるが今の保険料の範囲内で賄っていくことが良いのではという意見など、皆さんがどのような認識を持っているのかを伺いたくて、この３段階で順番に聞くことを目的にして、今回は提案をさせていただいた。
委員	多くの場合は数字がものをいう。もし、どう思っているかのアンケートの結果が反映されてくるのならば一生懸命回答するが、そこまで見られないのであれば、決められたものはしょうがない、税金と一緒にという感覚でよいと思う。
委員	記名式でアンケートをするのであれば、国の設問になるが、年齢、要介護度は、町が持っているデータから引っ張ってきたほうが正確だと思う。
事務局	そのあたりは、紐づけができるので削ることはできる。
委員長	国の項目を省くことはできるのか。
事務局	国に報告するときに紐づけができれば大丈夫。
委員長	国に報告する時は、数値が出せるということですね。
事務局	集計の段階で出す。
委員	金額のことだけではなく、何のためにアンケートをするのかをどう伝えるかだと思う。国が言っているからやるのではなく、町としてこのようなデータが欲しいので、何かに生かすための強調して言ったほうが、目的意識ができて回答してもらえと思う。アンケートを取るための元の文面が大事だと思う。
委員長	そこは伝え方の問題で、理解を得られると思う。当然この調査が何もこの後に影響をしないということはない。何かに上がっていくことは分かっているので、上手に伝えていく。これは要介護と要支援の人ばかりなので、慎重に行わないと、回収率や正確な回答が戻ってこない可能性があるということを理解した上で検討をしていかないといけない。
委員	追問６の選択肢１の「は」不要。サービスの内容だが、生活支援系に偏っているが、医療系のサービスは選択肢に入れないのか。介護保険サービスのことだと思うが、医療系の訪問リハビリや訪問看護もある。町は生活支援を中心に考えているからだと思うが、生活支援系は二の次で、医療系サービスこそ第一に考えたい。その人のADLを維持するために医療系のサービスが優先されるべきで、生活支援系はあくまでもサポート。生活支援系よりは医療系が大事だということを町にも認識していただきたい。
事務局	項目を加える。
委員	D 問１７。言葉の使い方だが、包括でも類型で紹介することはほぼないので、括弧書きの中は不要。専門職でもあまりこういう言い方をしない。追問１３の包括の役割の中で、「介護保険利用の相談窓口」とあるが、どちらかというと医療の話などの総合相談窓口の意味合いが包括にはあるので、ちょっとしたことだが言葉を変更していただきたい。地域のネットワークづくりや医療と介護の連携など、書き方が余計に分かりづらくなってはいけませんが、私たちが包括でやっているこ

	との中で何が知られているかはすごく知りたい。
委員長	検討していきたいと思うので、事務局と包括で相談してください。まだ意見はあるかと思うが、今月の末くらいまでは意見を反映していただけるとのことなので、あと2週間くらいで事務局に意見を願います。その他意見がないようであれば、議題は以上とする。進行を事務局へ戻す。
事務局	意見があれば、11月中旬に事務局まで願います。 次回は、12月19日（木）の午後1時30分より役場3階政策審議会室で開催するので、出席を願います。その時には、アンケートの形にしてお見せする。 本日はありがとうございました。

以上